

第3回 今後の成田空港施設の機能強化に関する検討会 議事要旨

日時：令和7年6月5日（木） 15:00～16:30

場所：合同庁舎第3号館 8階特別会議室

（議事要旨）

- 事務局（国土交通省航空局）、成田国際空港株式会社、各鉄道運送事業者、各航空運送事業者、地方公共団体（千葉県、東京都）、学識経験者各委員より説明および意見が述べられた。
- 基本的な整備の方向性について中間とりまとめがなされた。
- 中間とりまとめで示された方向性に基づき、
 - ・空港の本体施設については、成田国際空港株式会社を中心となって、国土交通省や関係事業者の意見を踏まえながら具体的な計画の策定に着手することになった。
 - ・鉄道アクセスについては、国土交通省、成田国際空港株式会社、関係する鉄道事業者、関係自治体が具体的な対応を検討することになった。
- 最終的なとりまとめに向けて、更なる検討を進めていくこととなった。

（委員等からの主な発言）

- 成田空港の競争力を確保・向上していくには取扱容量だけでなく質的向上を備えた旅客ターミナルおよび貨物施設が必要であり、これらについてより具体的なマスタープランの策定を進めていく。
- 空港アクセスについて、今回の更なる機能強化のタイミングを捉え、お客様目線で見ているアクセス利便性を向上させていくのかということが、今後の成田空港の価値、ひいては我が国の国際競争の観点から鍵となる非常に重要な要素である。
- 空港アクセスの中でも航空旅客の約6割が利用する鉄道は特に重要であり、鉄道事業者の皆様としっかり連携して具体的な整備内容等を検討してまいりたい。
- 旅客・貨物取扱施設及び空港アクセスの対応については滑走路整備に大きく遅れることなく取り組んでいきたい。
- 新貨物地区の一体運用に向けては、その整備について既存の自社施設や設備を有する航空会社やフォワーダーと十二分に議論し、移転時の物理的そして費用的な制約、それに対する受益等、総合的に考慮した上で、計画的なスケジュールづくりをお願いしたい。
- 空港駅の整備にあたっては、旅客ターミナルと直結して最短でアクセスできる配置を実現していただきたい。
- この機能強化は数十年に一度の貴重な機会。このタイミングでなければ抜本的なDX化は困難であり、これを機に生産性向上につながる自動化・省エネ技術の導入や、脱炭素化に向けたGX推進、空港従業員へのEX向上が実現可能な施設設備を有するモデル空港とすることができるようお願いしたい。
- 都心や羽田への速達性向上や輸送力強化が空港利便性の向上に寄与するため、単線区間の複線化や空港駅のターミナル直結化も併せて更なる検討をお願いしたい。

- 新ターミナルへの接続等、空港内の鉄道機能の強化については、既存の鉄道の構造物の取り扱いも含めた諸条件等を勘案すると、相当規模の工事内容になり、コスト・工期等を考えていくということが想定され、整備スキームについて整備費用や受益を勘案しながら、関係者の間で十分な議論・検討を必要な検討時間をもって進めていただきたい。
- 既存路線の相互乗入れ強化によって、成田空港から都心方面へのアクセス改善につながり、空港輸送力の強化にも貢献できるため、関係者において丁寧な検討、協議をお願いしたい。
- 空港アクセスの輸送力増強やサービス向上には、複数の施策を計画的・一体的に進める必要があり、その整備に当たっては多額の費用が見込まれるため、円滑に実現するよう整備スキームの検討をお願いしたい。
- 新貨物地区の整備については、成田空港の国際航空物流拠点としての機能の強化につながることから、今後、空港会社を中心となり、着実かつ計画的な整備をお願いしたい。
- 成田空港と都心、更には羽田空港間のアクセス強化に向けて、沿線住民の利便性の確保に配慮しつつ、単線区間の解消や都心への直結線など、国が中心となり、鉄道アクセス充実の方策の検討を進めていただきたい。
- 他社線区を含めた、既存路線の相互乗り入れ強化等を含め検討を進める必要があるという点について、具体的な対応は今後の検討ということで、関係者と綿密な調整を図ることが重要と考えている。
- 成田空港への鉄道アクセスについては、国において関係者と連携したうえで、引き続き適切な議論をお願いする。
- 既存路線の相互乗り入れの検討においては、関係鉄道事業者間で十分かつ丁寧な調整をお願いしたい。
- この機能強化は、既存施設を運営しながら大規模な整備をしていく国家プロジェクト。そういった意味でも、関係事業者の考え等を意思疎通しながら、目標達成に向けて環境整備や体制づくりをしていくことが非常に重要。また空港アクセスについては、成田空港を起点に国内の移動可能性を高め地方送客を促すためにはどうすべきかという視点も重要。
- この検討会で示された需要予測に対して、果たして鉄道輸送力の供給がどれほど間に合うのかというところを現実的なラインで考えていかないといけない。定常時だけでなく非定常時も含めて、定量的で緻密なシミュレーションによる予測をしていくということが必要。
- 航空輸送には、旅客だけでなく半導体を含む精密機器など産業に必要な物資を運ぶ役割がある。グローバルに変化する世界情勢のなか、成田空港を活用するサプライチェーン強靱化は、国家プロジェクトとして進めることが重要。